

e-dream-s 通信

No. 78 発行：2007年6月10日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

e-dream-s 通信・6月号は「第25回理事会報告&ECAP2007準備・大特集号」です。

5月26日(土)～27日(日)に、東京で理事会が開催されました。事業年度の節目での開催、理事を始め参加者から、事業報告や各プロジェクトの方針が掲載されています。

また、8月12日(日)～14日(火)に開催される「ECAP2007」「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」の準備も進んできています。5月中旬の実行委員会の韓国下見、要項の完成、参加者募集の報告やお知らせが満載です。

どうぞ「e-dream-s 通信・6月号」をお楽しみください。

目 次

- | | | |
|---------------------|------|------|
| 1. ボーイズラブは腐女子のエロ本か？ | 辻 莊一 | p. 2 |
| 2. 東京オンチの深川行：美術館と佃煮 | 井川好二 | p. 4 |
| 3. 27年目の新鮮さ | 山田昌子 | p. 9 |

《特集1：理事会報告》

- | | | |
|--|-------|-------|
| 4. 青山、池袋、西麻布、代々木...第25回理事会 | 中川房代 | p. 11 |
| 5. 「新しい靴」で新たなステージへ
アジアの学校・教育支援プロジェクト | 塚本美紀 | p. 14 |
| 6. 「生涯学び続ける教師を支援するプログラム
ACROSS FORUM」 | 辻岡尚子 | p. 16 |
| 7. 小さな一歩、でも・・・ | 仙崎裕右 | p. 18 |
| 8. 私の思い | 辰巳ゆきえ | p. 20 |

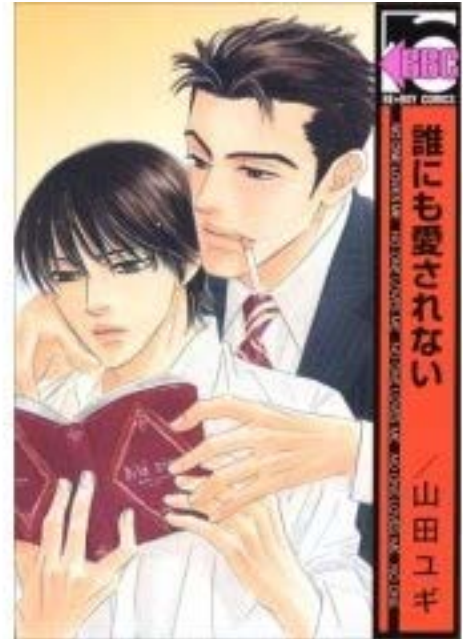
《特集2：「ECAP2007」進捗状況報告》

- | | | |
|-------------------------------|------|-------|
| 9. 訪韓報告 | 宮城英和 | p. 21 |
| 10. 拡大ECAP会議報告 | 新谷幸子 | p. 23 |
| 11. お金は大事！ | 稲川宏美 | p. 25 |
| 12. e-dream-s 東京会員のみなさんにエールを！ | 飯田佐恵 | p. 27 |

ボーイズラブは腐女子のエロ本か？

代表理事
辻莊一

いきなり何を言い出すのか、と感じられた諸兄も多かろうと思うが、まあ聞きなさい。世の中は刻々と変わりつつあり、その変化は意外なところから始まる。IT化グローバル化の世の中で善良な日本国民の多くが、G8や年金問題に注意を奪われている間に、大和撫子は人知れず変化しつつあるのである。その変化はどんなフェミニズムの運動家もなし得なかった程の大きなものである。それが「ボーイズラブ」なのである。例によってウィキペディアによると、「ボーイズラブ」とは、



男性同士の同性愛を題材とした女性向けの小説や漫画のジャンルのことである。10代の少年（特に美少年）同士の間での恋愛を指す言葉であり、大人同士の作品はメンズラブと呼ばれる場合があったが、最近では広い範囲で「女性向けの男性間同性愛」を指す。英語圏では同じ範囲をさして **Shonen-ai** と呼称する。

中略

似た言葉に少年愛・ショタコン・やおい・JUNE（薔薇）などがあるが、前二者が少年に対する愛情・嗜好そのものを指すのに対し、後二者がそのような嗜好を持った少年同士の関係（多くの場合性行為を伴う）に主眼を置いた創作物のジャンルを指すという点で異なっている。ボーイズラブは後者のほうに属する言葉。

腐女子とはボーイズラブを好む女性のことである。腐女子の年齢層は中高生から主婦までとかなり広い範囲に渡っている。今日本の中学校・高校・大学そして家庭には多くの腐女子が潜伏していると思って間違いはないのである。

そんなことを言っただけではほんの一部の話ではないのかと思う方は、書店で **BL** コーナーを探してみると良い。おそらくほとんどの書店に **BL** コーナーがあり、その量と種類に驚かれるはずである。ちなみにボーイズラブ小説レーベルが30以上・ボーイズラブ漫画誌が15以上、ボーイズラブ小説誌が10以上、ドラマCDレーベルが10以上ある。また今年アエ

ラが腐女子特集を組み、中学生日記でも腐女子を取り扱った回があったことは記憶に新しい。

この腐女子の感性は、BL というジャンルの外でも発揮され、例えばそのような場面はないキャプテン翼やテニスの王子様などという一般コミックスも、男性キャラクター同士が画面の外で行っていることをあれこれ想像するという楽しみ方まで産んでいる。

さて、このボーイズラブのどこが面白いかというと、これがまるで女子のためのエロ本の役割を果たしている様に見えることである。逆に言えばエロ本を見るという男子特有の行為が女子にも広がったということでもある。例えば、ボーイズラブが好きだとか自分が腐女子であるということは、教室で休憩時間中に堂々と語られることではないが、腐女子同士が集まった時にはおおっぴらに語られ、大いに盛り上がる（らしい）。

性について常に女性は受け身であるとされ、それは性行為だけのことではなく、小説や映画やマンガの性的な場面を楽しむのは男性だけであるとされてきた。性的な描写のほとんどは男性のために作られてきた。しかしこの腐女子・ボーイズラブという文化の中では、女性の方が男性を愛でそのセクシーさをあれこれ評価するのである。

もちろん、男性同士の恋愛や性行為を女性が楽しむわけだから、男性のエロ本と違ってそれが実際の恋愛や性行為に直接繋がっているわけではないが、こんなこと、つまりこれほど多くの女性がこれほどおおっぴらに男性を性的な対象として扱ったことはおそらく人類史上初めてなのではあるまいか。

こうして善良なる人々の知らない間に、まるで蛹の中で大きな構造変化が起きるように、日本社会は変わりつつあるのである。

東京オンチの深川行：美術館と佃煮

井川 好二

旅にでると、心や脳に刺激を受ける。ジンジン受ける。運動をすると、普段使わない筋肉や関節が思わず動き始めるように、馴染みのない街を歩いていると、適度な興奮と緊張感から、日常生活では眠っている感性が動き出す。見知らぬ風が頬にあたって、小学生のようにハイになるのである。

旅にでると、結構歩くし、美味そうなものの味見は欠かさないので、足も舌も刺激を受けるのだが、そのどちらの刺激も、結局心と脳へ伝達され、蓄積される仕組みになっているのだから、旅は、つまり、心や脳に刺激なのである。そういう刺激をたくさん受けるほど、人生に新たな気持ちで取り組める。

「日生¹で今朝とれたんが、届きましたよって」と、鳥の子色²の生絹³の着物を着た女将が、運んでくれた黄瀬戸⁴風の平鉢。大葉の上に蝦蛄⁵の造り、茗荷が添えてある。「うまそうな蝦蛄、もう、すっかり夏やな」酒はいつもの新潟の酒「久保田」。心が少し解けてくる。

「この間、東京へ行ったついでに、深川⁶へ寄ってきてん」

¹ひなせ〔日生(町)〕岡山県南東端、瀬戸内海に臨む町。人口 9,200。日生港を中心に発展した港町・漁師町で、耐火[れんが]・漁網の製造、ノリ・カキ・ハマチ養殖やミカン栽培が行われる。[新世紀ビジュアル]

² とりの子 - いろ【鳥の子色】鶏卵の殻のような色。淡黄色。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

³すずし【生絹】生糸きいとの織物で、練っていないもの。軽く薄くて紗しやに似る。源氏物語空蝉「一なるひとへ」。日葡辞書「ススシ」[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁴き - せと【黄瀬戸】桃山時代、美濃で焼かれ失透の黄釉のかかった茶陶器。銅による緑色の斑文や陰刻の文様を施したものが多い。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁵しや - こ【蝦蛄・青竜蝦】シャコ目(口脚類)の甲殻類の総称。体はやや扁平。頭胸甲は小さくて胸部の前4節までの背甲が癒合し、第2胸脚がカマキリのような捕脚になる。腹部は大きく長く、腹肢に鰓えらがある。海産で、熱帯・亜熱帯の浅海に多く、色も多彩。シャコ・トゲシャコ・ハナシャコなど。また、その一種のシャコは北海道以南に分布、浅海の泥底に穴を掘ってすむ。体長 15センチメートル。初夏、卵をもち美味。また、釣り餌とする。しやこえび。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁶ 深川【ふかがわ】隅田川東岸、東京湾に面する地。慶長期に深川八郎右衛門開発の深川村の成立に始まり、関東内陸から江戸への物資供給のために開削された小名木おなぎ川や隅田川沿岸を中心に町場が成立した。→#明暦の大火後の江戸の拡大に伴い、大名の下屋敷、寺社地や

「理事会で東京へ行くて云うたはりましたけど、その後で、深川どすか？」

「なかなか面白かったで」

「けど、センセと深川、何やちょっとイメージおうてへん気がしますけど」

「そうかな？」

「深川って、江戸っ子⁷はんの本場どすやる？」

「そう。『江戸っ子は、五月の鯉の吹き流し』、口は悪いが腹の中はさっぱりと、粋なもんや」

「宝塚のボンには、似合いまへんな」

「東京オンチ」とは、他の都市のことは、結構詳しく知っていたりするのに、東京のことになる、鈍感。知識も意識も低いことを云う、らしい。もの書きで芝増上寺⁸の法主⁹である寺内大吉¹⁰が、東京に無知だった若いころの司馬遼太郎を評して、これみよがしに、呼んだ言葉である。昔の司馬は、東京では朝ごはんは甘納豆を食べると思い込んでいたり、東京の街中でうどん屋を探しまわるなど、江戸、東京文化には無知な人間、「東京オンチ」であったらしい。

それほどではないが、今では私もかなりの東京オンチなのかも知れない。若い頃には、東京にもよく出かけたし、短期間住んでいたこともあるのだが、最近は、すっかりご無沙汰の食わず嫌い。東京の日進月歩には、つき合いきれしていない。しかし、他にもいろいろオンチになっていることはあるようで、新しい刺激に柔軟なところで対応できるよう、心がけたいものである、などと殊勝にも考える今日この頃でもある。

「深川へ行ったけど、名物の深川飯¹¹を食べそこねたんが、心残り」

米・材木などの倉庫地として利用され、1713(正徳3)江戸に編入された。江戸後期になると富岡八幡宮門前を中心に江戸庶民の盛り場として栄え、粋いきな深川芸者(辰巳たつみ芸者)は歌舞伎や文学の世界に登場した。明治に入ると工場が建ち、殖産興業の一端を担った。現在は江東区の一部。[岩波日本史辞典]

⁷ えどっ - こ【江戸っ子(江戸っ▽児)】江戸、または東京で生まれ育った人。「ちゃきちゃきの一」◇普通、三代続けて江戸(東京)で生まれ育った人を生粋の江戸っ子と称する。[明鏡国語辞典]

⁸ ぞうじょう - じ【増上寺】東京都港区芝公園にある浄土宗の大本山。関東十八檀林の筆頭。山号は三縁山。もと光明寺と称する真言宗寺院で、今の千代田区紀尾井町付近にあったが、1393年(明徳4)聖聡が浄土宗に改め、増上寺と称し、1598年(慶長3)家康が徳川家菩提所と定めて現在地に移した。以後、寛永寺と並ぶ江戸の大寺となり、全浄土宗の諸寺を管した。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

⁹ 一宗派の首長。浄土真宗などでは管長の称。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹⁰ 寺内大吉(2006)「東京街道はどこか」。文藝春秋「司馬遼太郎ふたたび：日本人を考える旅へ」特別版2月臨時特別号(2006)所収。

¹¹ ふかがわ - めし【深川飯】アサリのむき身とネギを味噌で煮込んだものを、汁とともに飯にかけ、どんぶり鉢で食べるもの。また、アサリのむき身を炊き込んだ飯。東京下町の大衆

「あさりとお葱ののったご飯ですか？」

「そうらしい」

「ちょっと気になりますなあ」

「ほんまに、残念」

地下鉄大江戸線に乗って、清澄白河駅で下車。近くには、「清澄庭園」と云う庭があり、元は紀文、紀伊国屋文左衛門¹²の邸宅であったという。しかし、ここも時間がなかったため、近くを通っただけ。

「鰻屋は、卑怯な商売やな」

「なんでですか？」

「街歩いてて、3ブロックくらい手前から、蒲焼きのエエにおいがしてきたら、もう店の前に着く頃には、口の中がすっかり鰻になってて、店へ入らな仕方がないようになってるやろ」

「ホンニ、ようわかります」

「卑怯やなあ」

「ホンニ、鰻屋さんは狡おます」

女将が、片口に入った久保田をグラスに注いでくれて、それを静かに呷ると、気分が華やいでくる。

「深川って、そんな美味そうな鰻屋が、大層やなしに、普通にある街」

「下町情緒どすなあ、センセ」

「墨東¹³や。けど、その鰻も食べれんかった」

「ほんなら、何しに深川まで行きはったんどす？」

「美術館や、東京都立現代美術館が、その清澄白河の近くにあって」

「その美術館へ行ったら、偶然、その近くが深川やった云うわけどすか？」

「まあ、そうやな」

「そんなことやないかと思てましたん、深川は、偶然どすか？」

的な食物。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

¹² 紀伊国屋文左衛門【きのくにやぶんざえもん】1669? - 1734(寛文9? - 享保19.4.24) 江戸中期の江戸の豪商。通称紀文。貞享年間、江戸本八丁堀で材木問屋を開業、→#柳沢吉保や→#荻原重秀らと結び、寛永寺根本中堂の用材を請負うなど御用達商人として巨富を築く。材木置場の火災や幕閣の交代などで正徳年間に材木問屋を廃業。紀州蜜柑の江戸廻漕や吉原の豪遊で知られ、物語や歌舞伎の題材となった。[岩波日本史辞典]

¹³ ぼくとう 【墨東・▼…」 遑東】東京都墨田(すみだ)区北部、隅田川(すみだがわ)と荒川(あらかわ)・旧中川(なかがわ)の間の地区。▽かつて「墨田川」とも書いた隅田川の、東岸の意。【新世紀ビジュアル】

「しかし、そういう偶然から、新しい発見があるんじゃないか」

「へええ」

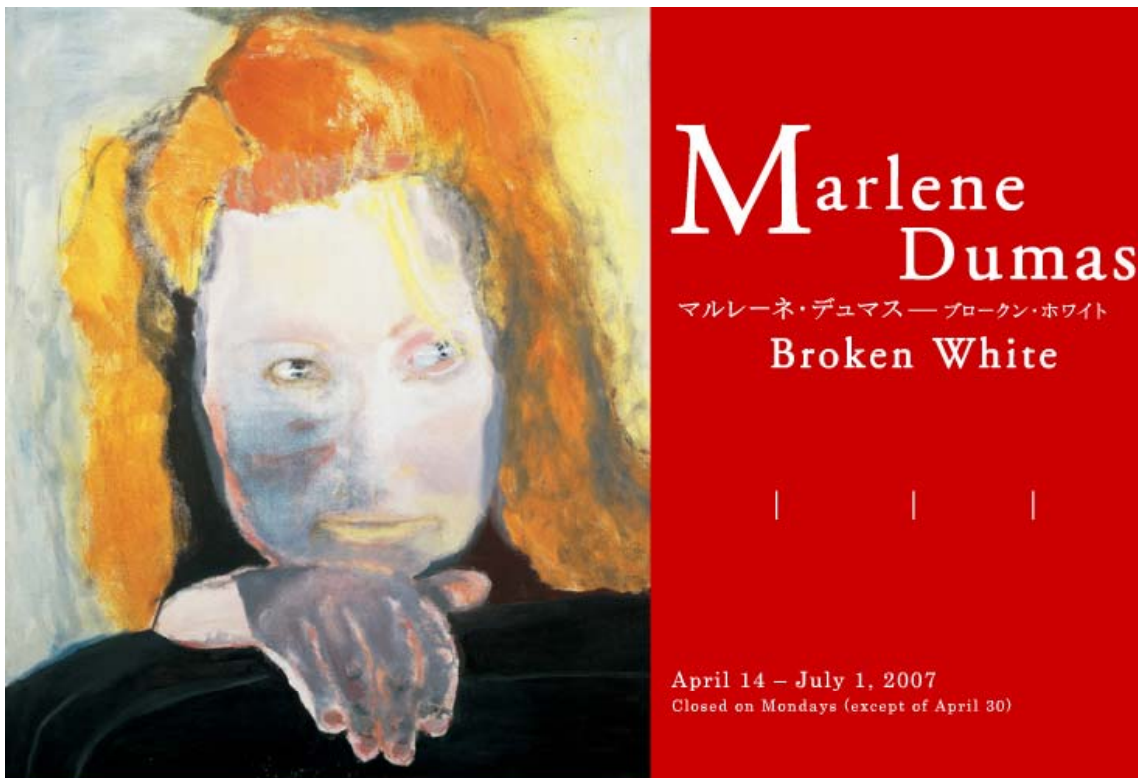
偶然とは言いながら、隅田川の東へ渡って、また違った東京が見えたことは、よかった。その見知らぬ街を歩きながら、新しい風を顔に受けて、少し東京がわかった気がした。また、今度はゆっくり、深川を歩いてみたいものである。

「その東京都立現代美術館は、何がお目当てで行きはったんです」

「そこでやってる『マルレーネ・デュマス展』。結構面白かったで」

「あんまり聞かへんお名前どすなあ」

マルレーネ・デュマスは、南アフリカ生まれ、オランダ、アムステルダム在住の白人女流画家である。むろんそれまで知る由もなかったが、山手線の車内の広告ポスターにちょっと興味を引かれ、その展覧会のテーマ「Broken White」に考えさせられ、理事会の後、時間に多少の余裕があった仲間二人と、大江戸線で墨東へ渡った。



「邪悪は凡庸である」1984年 Van Abbemuseum, Eindhoven 蔵

デュマスは、ポートレートにインパクトがある。顔の描写に力がある。車内吊りのポスターの絵は、「邪悪は凡庸である」と云うタイトルである。この邪悪な「女？」は、どんな凡庸な

夢をみているのやら？まして、白塗りのような顔と黒さが目立つ手。Broken White とは、何を意味するのだろうか？インパクトの大きいポートレートだが、中身は凡庸なのかもしれない？しかし、初めて見たこの画家の感性には、しこたま感心した。

「センセは面白いですね、いつでも子どもみたい」

「そうかな？」

「新しいもの好きで、知らんところ行ったらはしゃいで・・・」

「悪かったなあ・・・」

「それに、すぐ反省しはるとこも、子どもみたい」

反省するのも子どもみたいと云われると致し方ないが、東京オンチも少しは解消するのがいいのだろう。食わず嫌いも、偶然にせよ、知らないことにチャレンジするのがいいのだろう。

「深川飯も鰻も我慢しはったセンセに、ほんまもんの深川の味どす」と女将が運んで来たのは、志野焼の器に入った天安¹⁴の佃煮。「この間、知り合いが月島の方へ行ったお土産」

天安は、大阪の西淀の佃島から、家康のころに江戸に移り、伝統の佃煮を現代に伝える老舗。貝ひもが上品な味付けである。佃煮は、噛めば噛むほど味のと云うのもわかる。江戸開闢以来の伝統もわかる。しかし、新しいものを受け入れる柔軟性もまた、必要ではないだろうか。その心と脳のフレキシビリティが、今の私に必要なだと、つくづく思うのである。

「ホンニ」(Sunday, June 10, 2007)

¹⁴ 「佃煮発祥の地佃島で、創業（天保8年）当時の製法を守り、また、創業当時から現在まで、170年受け継がれてきた「たれ」を味付けの基本としています。「たれ」は色々な素材を煮たときの最後に残る煮汁でこの煮汁には170年分のあらゆる素材の味がしみこんでいます。この「たれ」が佃煮屋天安そのものです。商品は昔ながらの貝類・海藻・小魚が中心で味付けをしています」 http://www.hukubukuro.net/shopping_cart/html/tenyasu_02.html

27年目の新鮮さ

理事 山田昌子

教員になって27年目を迎えている。その間ほとんど担任をしてきたが、今年度は、年度途中から休職するため担任はできない。教員になって3度目、現在勤務する高校で初めての担任でない年。担任業務に慣れた私にとっては、面白い毎日とは言えない。担当する教務部の仕事は、地味で事務的な仕事が多く、担任のように生徒との距離が短いわけではないし、忙しいといっても担任ほど忙しいわけではない。生来落ち着かない性格のせいかな、自分の教室というお城がないのが寂しいのか、ホームルームが恋しくなることがある。英語を教えるだけでなく、様々な事柄を生徒たちと語り合う機会が減ったせいかもしれない。が、面白くなくてもそんな仕事がなければ学校は機能しない。当たり前のことだが、担任業務ができるのは、他の分掌の先生方のそういう支えがあつてこそと、最近実感している。長年教鞭をとってきたが、そういう発見、異なる方向から物事を見ることは、私にとって新鮮！

もうひとつマンネリ(?)だったかもしれない私の発見がある。今回はそれを書いてみたい。

新1年生が入学し1、2か月程たつと、担当している1年生の生徒たちは高校生活に慣れてきた。最初は『原級留置』になったらどうしよう』と過度に心配して緊張していたが、徐々に要領を覚え、リラックスした表情を見せるようになった。と同時に、授業中退屈そうな表情をすることが多くなった。午後からの授業となると、眠気に負け、うとうとすることもある。クラス全体として、明るく積極的なムードというよりも、沈滞した陰鬱なムードに近くなったという方があっているのかもしれない。それ程高い学力を持っていないのに、大学受験を目指すコースというわけで、その看板に押しつぶされそうになっているのだろうか。私は「あれ、どうしたの?」と思った。3年前同じことをやっても、同等レベルのコースの1年生たちは生き生きした表情で授業に参加し、楽しんでさえいた。何が違うのか、授業内容が面白くないのか、やり方が彼らに合わないのか、1時間1時間の授業に責任をもっている自分としては、考えざるを得ない。

毎年囁かれる低年齢化、知的好奇心の低下も原因かもしれない。私が年をとり、若い高校生感覚に合わなくなっているのだろうか。私は自分を振り返ってみた。4月からの授業は、英語を教えることが主で、教科書から脱線し雑談することはなかった。3年前の生徒は、担任の生徒であり、今教えている生徒はそうではない。以前と比べると格段に生徒たちに語りかけることが少なかったのかもしれない。このまま同じ形で授業を進めるよりも、私の思いをぶつけてみるのもいいかもしれない。私は職員室の自分の机の下にあった拡大写真を数枚持ち、教室に向かった。案の定、その日の授業も若者らしくない元気のない雰囲気。私は途中で授業をやめた。

「みんな、この状態で授業続けても意味ないと思うねん。私の話を聞いて。写真持って来とし、見て。」

初めてロンドンを旅行した時の写真、初めて仕事をした AET を訪ねオーストラリアに行った時の写真、勤務校の研修旅行の下見で訪れたシンガポールの写真を見せながら、その時折のエピソードを話した。写真はなかったが、モンゴルでのゲル生活、カメルーンでのピグミーの人々と大晦日の夜踊り明かしたことなど。徐々に生徒たちの頭が上がり、目は興味深そうにじっと聞き入っていた。

「勉強って面白くないよね。でも、英語のお陰で、私はこんなにいろんな世界の人達とお話が出来た。こんなおもしろい人生になるとは思わなかった。卒業生で留学生生活を充実させている人もいる。英語だけと違うで。今日学校に取材に来たはった卒業生は、一生懸命勉強して新聞記者になって活躍したはるで。自分で自分の世界を狭めたらあかんで。自分の世界をもっともっと広げような！」

1 時間で生徒が格段に変わったとは言いがたいが、沈鬱なムードがなくなったとは思う。この後私の写真を見に来た生徒も少なからずいた。担任の先生にこの話をした生徒もいたと言う。このやり方がすべての解決だとは思わない。が、教員であれば当たり前のことなのに、私は「語る」ことを忘れていたように思う。何のために勉強するのか、なんで英語をするのか、答えはひとつではないだろう。が、語りかけてなんぼ。生徒をゆさぶってなんぼ。久しぶりに原点に戻り、新鮮な気持ちになった。

青山、池袋、西麻布、代々木… 第 25 回理事会

中 川 房 代

5 月末で e-dream-s の 2006 事業年度が終了した。日本での年度替わりは、3 月末や 12 月末がキリが良くて一般的だと思うが、e-dream-s は設立時に「5 月末」と決めた。何だか中途半端な感じがするが、その理由は、NPO の法律にある。NPO 法（特定非営利活動促進法、平成 10 年 3 月 25 日法律第七号）には、こう規定されている。

毎事業年度初めの 3 ヶ月以内に、前事業年度の事業報告書などの書類を作成し（第 28 条）、所轄庁（e-dream-s の場合は大阪府庁）に提出しなければならない（第 29 条）。ついでに言えば、これらの書類は所轄庁で 3 年間閲覧の対象になる。

事業年度終了 3 ヶ月以内に、定時会員総会を開催するのであれば、皆が集まりやすい 8 月末が都合良いのではと考え、従って 5 月末を事業年度の終了と決めた。これが中途半端な理由だ。

それで、毎年、1 年間の総括&次年度方針を論議する理事会を 5 月末か 6 月初めに開催している。今回は、8 月の「ECAP 2007 ; Tokyo」の打ち合わせも兼ね、東京で開催することにした。理事会には 10 名、ECAP 拡大実行委員会の会議には 22 名が参加しての賑やかな会議となった。



理事会



ECAP 拡大実行委員会 撮影：藤澤俊之氏

議案は3つで全て可決。(名前は事業報告担当者、敬称略)

(1) 議案1 : 2006年度(2006年6月1日から2007年5月31日まで)事業報告承認の件 :

- ・ @aglance (辻)
- ・ 「ECAP 2006」(稲川)
- ・ 「ECAP 2007」中間報告(岡田)
- ・ 「韓国早期英語教育視察」報告(中川)
- ・ e-dream-s ホームページ(仙崎)
- ・ e-dream-s 通信(道面・岡田)
- ・ ワインプロジェクト(塚本)

(2) 議案2 : <報告事項>2006年度収支決算の報告(藤本)

(3) 議案3 : 2007年度(2007年6月1日から2008年5月31日まで)事業方針について

- ・ 「ECAP 2007」今後の方針(岡田)
- ・ フォーラム方針(ACROSS 大阪支部で実施)(辻岡)
- ・ 韓国早期英語教育視察アンケート ; 日本での実施プロジェクト方針(稲川)
- ・ 日本における小学校英語の実態調査プロジェクト方針(中川)
- ・ アジアの学校・教育支援プロジェクト(調査)方針(塚本・辰巳)
- ・ 2007年度収支予算(藤本)
- ・ 役員選任(次期役員人事)の件(辻)

ECAPについては、実行委員会から報告記事が出ているので、ここでは、特に次年度方針について決定されたことを書くことにする。

1. @aglance 事業は、これまで e-dream-s の中心事業として大きな役割を果たしてきた。現在は更新をストップしており、プログラムとしての1つの段階としての任務の完了とその功績を確認した。
2. ワインプロジェクトについても、これまでの e-dream-s の財政を支えてきたプロジェクトとしてその貢献を確認した。特に、e-dream-s にサポーターとして協力してくださったワイン・フォーラムに感謝。使命を終えたため、昨年度で終了とする。
3. 現在、@aglance やホームページ、メール等で使用しているサーバを、容量の多い新プラン「さくらレンタルサーバ・プロ」に変更する。サーバ移行費・維持費として6万円。
担当 : 仙崎
4. 昨年11月に韓国で行った早期英語教育アンケートを日本の小学校、中学校で実施する。韓国との比較などアンケート分析を専門的に行い、日韓英の3カ国語でまとめを行う。予算として10万円(主にアンケートの処理費用として)を計上。担当 : 稲川

5. アジア教育支援事業（調査事業）に着手する。8月総会までに、第1段階の調査：アメリカなど現地からの情報、ネットでのリサーチを元に、レポートの集中を行う。現地で見調査ができるよう検討を続ける。予算として20万円。担当：塚本、辰巳
6. フォーラムは、英語教師として必要な研修として実施し主には ACROSS 会員対象として行うが、内容によっては会員以外にも参加の機会を設けても良い。東京での実施も。担当：辻岡
7. 8月末で理事・監事の任期が満了となる。総会で新役員の承認を行う。選任の方法については追って連絡する。現理事の山田さんは8月より2年間アメリカ滞在になるため、在米特派理事（仮称）として活動に参加することの確認をした。

例年であれば、次期何をするのかがなかなか方針として出ないまま継続審議で理事会を終えることが多かった（よくないことであるが）が、今回は、2-3の方針を具体化することができたことが、大きな成果であったと思う。

また、理事会と併せて ECAP の会議を持ったことで、ECAP のイメージが共有化でき、成功を共に担っていこうという気持ちを確認できたことがよかったと思う。準備や課題もあるが、皆で成功に向け、頑張っていきましょう！

それにしても、今回の東京は移動が多かった。（これは計画した私自身の責任なのだが。参加者の皆さん、すみません。）ちょっとは知っているつもりだったのだが、私がイメージしていたよりも、東京は広くて、人が多かった！



ホテルフロラシオン青山・ロビー前で



夕食会 ECAP 拡大実行委員会後に皆で

「新しい靴」で新たなステージへ

アジアの学校・教育支援プロジェクト

塚本美紀

出かけるのが億劫になる梅雨は、いつもはあまりありがたくないのだが、今年は雨の降る日をちょっと楽しみにしている。というのも、とうとう時雨履きを手に入れたからだ。時雨履きとは、草履の爪の部分が透明のビニールで覆われていて、雨で足袋が濡れないようになった履物だ。ビニールのカバーが何だか実用的過ぎてあまり好きになれなくて、これまで避けてきたのだが、小さな前つぼだけがぼつんと紅色をした真っ白な美しい時雨履きを見つけ、とうとう手に入れることにした。これで、雨の日も気持ちよく出かけることができる。

新しい履物を手に入れるとわくわくする。子供の頃、白い襟のついた紺色のワンピースに合わせて買ってもらった黒いエナメル靴を、出番が来る日まで何度も、その小さな箱を開け、ゆっくりと薄い紙を開いて覗いてみた。大学の入学式のために買ってもらったグレーのハイヒールは、母の三面鏡の前に敷いた新聞紙の上で履いてみて、何度も自分の姿を確かめた。新しい場所に歩いていくのは自分自身であって、靴が連れて行ってくれるわけではないことはわかっているけれども、新しい靴は私を新しいステージへと誘ってくれるような気がする。

その感じは、新しいプロジェクトを始めるときにちょっと似ている。2003年の夏、先発隊として韓国の江原道にあるオリンピックパークテルで、ご招待した韓国の先生方と本隊が到着するのを待っているとき、これから起こることを頭の中でシュミレーションしながら、何度も深呼吸した。アメリカの学校とのテレビ会議を行うプロジェクトの助成申請がおりたのを知ったのは、出張先の慶州のホテルのロビーのPCでメールをチェックしていたときのことだったが、これから始まろうとしているプロジェクトのことを考えると、いてもたってもいられなくて、すぐにでも日本に飛んで帰りたい気分だった。そして、実際にECAPもテレビ会議のプロジェクトも、私に多くの人との出会いと、それに伴うたくさんのすばらしい経験をもたらしてくれた。もちろん、辛抱強く導いてくださる方々や、さまざまなかたちで助けてくれた人々のお陰であることは決して忘れない。

5月の末、東京で行われたe-dream-sの理事会で、アジアの学校・教育支援プロジェクトについて話し合った。支援の対象地域は東南アジア、内容は学校および教育支援、方法としてはe-dream-sが独自で支援を行うのと、他の団体と協力して行うということが考えられるということなどを確認した。まずは、どんなことをどんな方法で行っていくことができるのか調査しなければならない。また、他の団体はどんなことをやっているのか、どんなことが一緒にできそうなのかも調べる必要がある。幸い、東京の須賀さんが今月からマサチューセッツに

研修、この夏には大阪の藤澤さんがポートランドへ出張、そして京都の山田さんがサンフランシスコの大学院に留学、ということなので、アメリカでの支援活動の実態を教えていただけるのではないかと楽しみにしている。また、中川さんはカンボジアの支援活動を行っている団体の話を聞きに行かれるとのことである。8月の総会では、皆さんから寄せられた報告や調査した結果についてまとめて発表したいと思っている。

やっと原型が見えてきたような、あるいは油断すると見失ってしまいそうな状態だが、このプロジェクトが、e-dream-s を新しいステージへと誘ってくれる「新しい靴」になれるよう、大切に育てていきたいと思う。そして、その新しいステージで、皆さんと一緒に新しい風景を見てみたいと思う。

「アジアの学校・教育支援プロジェクト」情報募集中

こんなことをやってみてはどうだろう！こんな面白いことをしている団体を知っている！あの人に連絡をとって見たら！など皆様からの「アジアの学校・教育支援プロジェクト」に関する情報をお待ちしています。何かありましたら、塚本美紀(tsukamoto@e-dream-s.org)までご連絡ください。

生涯学び続ける英語教師を支援するプログラム

ACROSS FORUM

辻岡 尚子

先日の理事会で、英語教師の自主研修団体アクロスの活動を支援するプログラムとして、FORUM (フォーラム)という活動を行う事を提案しました。これは、アクロスで現在行っている、英語音声訓練カリキュラムでは足りない部分を補う研修です。

アクロスが結成されてから30年以上。多少の訓練のノウハウの変化や、理論的な裏付けがなされた、という変化はあるにしても、英語音声訓練は、結成当時と変わりなく英語教師としての資質の向上に役立っています。いわば、「一生ものの宝」です。その他の事は、基本的には自分で学んでくださいね、というカリキュラムでした。けれども、FORUMは、「その他の事」も、同じ志をもつ仲間とともに学びましょうという提案です。ですから、内容は、時代の変化にも対応し、英語教師として、常に更新し続けなければならない知識やスキルを扱います。

目標および具体的な内容例

- 「英語ができる」英語教師になるために
 - ー英語の運用能力の向上
 - e.g. 使用言語はなるべく英語で
 - ー英語という言葉に対する見識を深める
 - e.g. 英語史、語源、文学
- 「教えるのがうまい」英語教師になるために
 - ー英語教授法、指導法
 - e.g. 授業実践
- 「今時のできる」英語教師になるために
 - ーコンピュータスキルの向上
 - e.g. パワーポイント、CAL
 - ー英語教育についての見識を深める
 - e.g. 初等教育における英語教育
 - 日本の公教育におけるALT、NNSの英語教師としてのあり方
- 「幅のある」英語教師になるために
 - ー国際交流や、異／多文化を理解する上で必要な知識、経験の蓄積
 - e.g. ECAP(韓国)に関するもの
 - アジアの学校・教育支援(現地での活動報告など)
 - ー教育に関する知識、経験の蓄積
 - e.g. 教育問題全般

あえて、「 」をつけたのは、単にわかりやすさのためです。上にあげた分類は、便宜上のもので、それぞれが独立した項目というわけではありません。

実は、このFORUMは、現在大阪で毎月一度、1時間の枠で実施されています。対象は、全会員です。いままでも、勉強会として不定期に行ってきた活動を、月1度訓練枠をとって行うようになりました。それは、音声訓練とFORUMが取り扱う内容は、どちらも同じぐらい大切であり、定期的に行わないと、どうしても後回しにしがちであるからです。また、研修の話題を探したり、講師を依頼したりするなかで、今教師として何を学ばなければならないかということに対して気づきがふかまるというメリットもあります。実際に行われた研修例をご覧ください。

- 昨年度ECAPのプレゼンテーションのリハーサル(各自パワーポイント使用)

- An Introduction to the History of English Language

Dr. Kenneth Schaefer(テンプル大学)

2006年11月12日実施

- 大阪府寝屋川市、池田市の小学校の英語活動の現状

澤村和洋先生(寝屋川市小学校英語教育支援者)

辻公美子先生(池田市立細河小学校教諭)

2007年3月11日実施

- MANGA(アメリカに於ける日本の漫画)

Russell Fronk 氏 (大阪市ALT)

2007年4月15日実施

- 高校英語教育におけるICTの可能性

辻荘一氏(大阪府立千里高校教諭、e-dream-s代表理事)

2007年5月13日実施

今後は、以下の予定をしています。

- 韓国における教育について

李領事(駐福岡大韓民国総領事館)

韓国にて高等学校長および教育省勤務経験あり)

- 英語劇の指導の実践報告

佐藤由美子氏

- バングラディッシュにおける教育事情

玉木由美氏

小さな一歩、でも・・・

仙崎裕右

5月26日に行われた第25回 e-dream-s 理事会に出席できなかったので、誌上をお借りして簡単にHP部門について報告しておきます。

2年ぐらい前から、公約にしてきたHPの英語化。理事会、総会で報告をするたびに、「すみません、まだです。」と報告するのは正直辛かった。なんとか少しでも、と思いながら、なかなか進まない。いや、正確に言うと、先人たちが作ってくださったものがあるのだが、そこになかなかつなげられない。

報告でも話したことがあるが、なんとか英語ページにつなげたいという思いが深まったのは、去年のE C A P。Seoul SETAの皆さんと一緒に活動する中で、向こうのHP¹⁵を気になって何度かアクセスしてみた。しかし、会長のお言葉以外英語の部分がない。もっと向こうの会の様子を知ることができれば・・・。と思ったとき、逆に韓国の先生がe-dream-sの活動を知りたいと思ったら・・・、うーん、やはり急がねば・・・、とか、やっていればE C A P 2006の写真も見てもらうことができるのに・・・、と思ってもなかなか手が動かなかった。

それでも、やはり今回の報告では何とかしなければという強迫観念の元、連休中、重い腰を上げた。実際には自分で作ったというより、今までのページを新しいものにし、トップページを改定しただけではあるが、一応、韓国、あるいは海外の方が e-dream-s の HP を見たときにすっきりと見てもらえる形にはできたと思う。本当はFLASHやらなんやら、これまでのページに負けないようなものを作りたいと思っていたが、次の課題にすることにして、とりあえず、トップページをようやく作り直した。ちょうど、E C A P 2007 の募集要項も掲載する時期であったのも、自分のいい動機付けになった。先月号に書いた、東京メンバーの情熱。当てられた熱気が冷める前に、作業ができてよかったと思う。早くE C A Pの説明、報告を英訳してもっとたくさんの人に見てもらえるようにしていかなければならないと新たな目標を設定したところだ。

ちなみに、Seoul SETA の現在のHPのトップページを掲載しておく。上の画像（画像は数種類あり自動的に切り替わる）ではE C A Pメンバーにもおなじみの顔がいくつか見られるが、今回、注目は「Seoul SETA Plan for Year 2007」にE C A P 2007がきちんと掲載されていることである。向こうにとっても e-dream-s が大きな存在になってくれているようで、うれしい。

¹⁵ <http://www.seoulseta.net/>



「ECAP 참가 8.12(일)~8.14(화)(15~16 관광)일본 도쿄」とある。
 (和訳: ECAP 参加 8.12(日)~8.14(火)(15~16 観光)日本 東京)」

「ひとりの人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては大きな飛躍だ」 たったこれだけのことを、ニール・アームストロング船長¹⁶の言葉になぞらえるのは甚だおこがましいことは百も承知だが、今後の更新を新たな公約にするうえで、ちょこっとカッコをつけさせてください(大風呂敷を広げただけに終わりやしないかとプレッシャーはあるのですが・・・)。

「HPにとっては小さな一歩に過ぎないが、これからの更新に乞う、御期待！」

¹⁶ ニール・アームストロング (Neil Alden Armstrong, 1930年8月5日 -) は、アメリカ航空宇宙局 (NASA) の宇宙飛行士。1969年7月19日、アポロ11号の船長として、月面に世界で初めて降り立った。上述の名言の原文は "That's one small step for [a] man, one giant leap for mankind." である。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8B%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%83%BB%E3%82%A2%E3%83%BC%E3%83%A0%E3%82%B9%E3%83%88%E3%83%AD%E3%83%B3%E3%82%B0>

私の思い

辰巳ゆきえ

5月20日、理事会に先立って行われた理事会の打ち合わせに参加した。今後のイー・ドリームズの活動、そしてその方向性が議論される理事会であるが、その理事会で議論されるべき新規プロジェクトについての打ち合わせであった。いくつかの案があり、小学校英語についてやALTの活用状況、ECAPやフォーラム、アジアの学校支援など、どれも私の心を動かした。なかでも、アジアの学校（教育）支援プロジェクトはチャレンジングなプロジェクトではあるが、アクロスメンバーにとっては長年の夢であり、なんとか形にするべきものであると確認することができた。

昨年度扱っていた教科書にカンボジアのボランティアワークについての内容があった。地雷を除去する仕事、「カンボジアこどもの家」の栗本さんが作った識字のためのポスターなど、様々なボランティアの形があるという、150程度の単語で書かれた、文章と対話文であった。1～2週間でレッスンは終わったが、表面的なことだけでなく、なんとか自分の生徒たちに、カンボジアのように最低限の教育が必要とされている現状について知らせたい、そして彼らにできる関わりについて考えさせたいという思いが生じたが、「思い」だけで、どうすることもできずにいた。

新規プロジェクトとしては、まずは「調査」からであるが、「私の関わり方」を探りつつ、積極的にこのプロジェクト関わっていきたいと考えている。

訪韓報告

ECAP2007実行委員会 宮城英和

日程を調整し、なんとか3人そろって訪韓することができた。その目的はECAPの日程や韓国の教師の参加人数や費用の確認と日韓文化交流のつどいのトピックについて話し合うことである。12時15分羽田を発ち午後2時45分に金浦空港に到着した。空港から宿泊先のホテルのあるミョンドンまでは地下鉄を利用した。

約束の時刻午後5時、ユンビンさんとグンビさんそれにチョウさんがホテルに到着。グンビさんは昨夏のECAPで同じグループ。チョウさんは新しいメンバー。大阪でのECAPにいらしたというキムさんも到着。さらにハイキョンさん、ミンハイさんと続いた。

ホテルには喫茶ルームがないので、直接食事をする場所へタクシーで移動することになった。昨夏のECAPのメイン会場、キョボク高校の近くである。

その後、ノーさんとリーさんが加わり、韓国の先生方は8人となった。まず、岡田さんがECAPの日程を説明し了承をえた。韓国側の参加するメンバーが12名だが大丈夫かとの話がでた。それ以上増えないでほしいことを伝える。費用についてもこちら側の提案に異論がなく、航空運賃も韓国側が自分たちで手配するという。オプションツアーの場所も自分たちで決めるということであった。

つどいの時程についても、異論はなしである。授業のトピックについては、とりあえず、候補の6つか7つ決めて、グループが決まった後、各グループで選んでもらうことにした。そのときに勿論、それ以外のトピックになってもかまわないということが確認された。

どんなトピックかについては、新谷さんが東京で考えたものを紹介した後、韓国の先生方からいろいろとでた。チョウさんは携帯電話や塾の話。ノーさんは海苔巻きを実際に作ったらどうかと提案。グンビさんとミンハイさんは昔話や伝統的な遊びやゲーム。さらには学校の制服、ハングル語講座などが続く。選ぶときの留意点として、中学生の英語の力などを考え、一般的な話題や深刻な話題よりも具体的で単純な話題の方がいいということや、ゲームやアクティビティを織り交ぜた授業にすることが大切だということ確認された。そして、以下のようなトピックが候補としてあげられた。

1. 食べ物
2. ファッション（制服、流行、伝統的なもの）
3. 学校生活（携帯電話、塾）
4. 趣味、関心、夢
5. 民話、歌
6. ハングル語
7. マナー、エチケット、ジェスチャー

その後、歓談しながらおいしい食事とお酒をごちそうになった。帰り際にはお土産までいただいた。いつもながらの韓国の先生方の暖かいもてなしには頭が下がる。レストランを出た後、釈迦さま生誕のパレードがあるというので見学に連れて行っていただいた。いろいろな衣装に身を包んだ人たちが通りを埋め尽くす。パレードの波である。韓国の人たちの祭りに対する熱い思いを感じる。10時半ごろホテルへ到着し11時半ごろ就寝。翌朝、チョウさんが朝早く、車でホテルまで迎えに来て、空港まで送ってくれた。感謝、感謝である。東京での再会を約束し、8時45分の便で帰路に着いた。

拡大ECAP会議報告

ECAP2007 実行委員会 新谷 幸子

5月26日夜、東京、池袋の勤労福祉会館にて拡大ECAP会議が開催されました。この会議の目的は、『ACROSS・e-dream-s 全会員が、ECAPの成功に向けて全力で実施・サポートしていくため、東京の会員と他の地域の理事や企画メンバーが顔を合わせて話をする事でECAPの全体像の共有化を行い、共通認識を深める』というもので、e-dream-s 理事会の期間中、理事の皆さんと東京支部のメンバーが総勢20名で会合を持ちました。これまで、大阪の関係の先生方と東京の実行委員とで、話し合いやメールによるやりとりを重ねながら企画を進めてきましたが、その企画がだいぶ形になってきた今、こうして多くの皆さんを前にご報告する機会が持ててとてもよかったと思っています。まだまだ具体的な中身についての検討はこれからですが、準備段階からイメージを共有して、皆さんにも一緒に考えていただけることは、実行委員として大変心強く、有り難いことです。今回の会議の中でも、実行委員が気付かなかった点へのご指摘や、貴重なアドバイス、ご意見を沢山いただくことができ、参考になったばかりでなく、今後の準備への大きな励みとなりました。ありがとうございました。本会議の目的にもあったとおり、「顔を合わせて話をする」ことの必要性や重要性を改めて実感しました。

実行委員になった当初は、何もかもが初めての試みで、戸惑いやプレッシャーも感じていましたが、会員の皆さんの心強いバックアップがあったお陰でここまでやって来られました。ECAPまであと2ヶ月、ますます魅力的な企画にしていけるように実行委員一同力を合わせてやっていきたいと思っておりますので、ぜひ皆さんのアイデアやご意見をどしどしお寄せいただければと思います。今後ともご協力よろしく願いいたします。

《拡大ECAP会議議題および主な確認事項》

1. ECAP2007Tokyo 実施要項確認

- ・韓国人英語教師の参加募集人数は最多で12人。ALTは大阪で3人、東京で3人募集する。

2. 「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」実施要項確認

- ・参加する中学生に保険加入させる（費用は主催者負担で）。申込用紙には保護者の同意書（印）を入れる。

3. 訪韓報告

- ・授業の題材候補は、食べ物、ファッション、学校生活・日常生活、10代の趣味・興味・夢、伝統的な話・歌、ハングル文字、マナー・エチケット・ジェスチャーなど。食べ物に関しては、調理は行わないものとする。今後グループ決めをして、グループでこれらの題材をもとに決めていく。

4. 「英語による中学生対象日韓文化交流のつどい」の実施方法等

1) 時程 2) 全体の流れ、場所 3) 今後の予定

- 3部屋に分かれて40分授業を2コマと Tea Time (20分) を、最後に参加者全員で Fun Time (30分) を行う。

5. 役割分担

- 早急に決めるべき係のみ決定 (Welcome Ceremony、Farewell Party、Home stay の各担当)。また、E C A Pの報告集は大阪で、つどいの報告集は東京で担当する。

お金は大事！

稲川宏美

「教育はお金や。」というのが私の学校の以前の教頭の口癖だった。その教頭は土日ボランティアクラブの生徒と一緒に潰れた自転車を修理したり、日頃、親交を深めている地域の人たちから安く仕入れた材料で焼きそばを作ってお祭りで売ったりと、色んな事をしてこつこつ稼ぎ学校が自由に使えるお金を用意し、なかなか捻出しにくいボランティア講師の謝礼や、急に必要な備品を買うとか、ここぞと言うときに役に立てていた。私はその情熱と献身的な姿勢にいつも敬服していたが、お金を得ると言うことは目的が公の教育のためであってもなかなかたいへんなことなんだと言うことをその姿から思った。

2006年夏からの私のタスク、ECAP2007のための助成金をゲットすることも、まさしくきちんと目的を持った社会に役立つ活動に使うお金を手に入れる事ではあるが、そう誰でも簡単にくれるというものでもない。まずは、助成金を獲得することがECAP2007実施の前提となっていたので、責任も重大だった。たしかに世の中にアピールしてこそ、社会貢献のためのNPO。いくら韓国の先生達と仲良くなってもひっそりやってたんでは広がらない。だから、「来年も是非、日本に来てね！」とかれらに言ってきた私としては、是非ECAP2007が実現するようにせつせとがんばらねばならない。しかし、元来ずぼらなので、特に数字あわせがなかなかできず、思ったようには、書類づくりがはかどらない。まだはっきりとは決まっていない活動の中味を考え考え書いているとどんどん時間がたってしまい、中川さんからいろいろ情報が送られてくるのに件数をだすには準備が間に合わなかった。締め切りギリギリの夕方、梅田の郵便局の窓口の前で中川さんにイーDreamズの公印を押してもらってやっと提出。なんて感じで、仙崎さんとも分担しながら、なんとかいくつかの申請書を出すことが出来た。結果は、やはり申請前に電話や面接などしてよく相談にのってもらってから書類をだした、2件、「日韓交流協会」と「こどもゆめ基金」から助成金がおりにくなった。つまり、しっかりそれぞれの助成金の目的を調べて、問い合わせにも時間をかけて書類を作れば、やっただけのことはあるということがわかった。もうちょっと頑張っていればあと1つくらいもらえたかなあとちょっと後悔もしている。

ともあれ、めでたくECAP2007が動きだし、昨年の韓国の先生達との約束が実現されることになって、ほっとしている。2万円はらっただけで東京で2泊3日のセミナーに参加してホームステイもしてさらに、日本の子ども達に自国の文化を紹介する授業が出来るなんて、ほんとに韓国の先生達にとってはこれ以上ない理想的な話だ。また、「中学生対象、英語による日韓文化交流のつどい」は、本当に面白い発想だと思う。中味を韓国の先生と共に考えて授業をするというのは、私たち日本人教師にとってもチャレンジとなるし、何より、募集100名の半分50人は実績として必要と言われている中、その生徒を募集する段階で、

井川先生が言われたように私たちの活動を外へ向かってどんどんアピールしていくことになる。

問い合わせをしたり、文書を書いているとどんな効果をねらって何を売りとしてこの取り組みをしようとしているか説明するために色々考えなければならない。そういう事のひとつひとつが日頃は自分のまわりの小さな世界の事しか考えてない私にも新しいことを学ぶ機会を与えてくれた。東京のメンバーの特に実行委員の人たちはこれから本当に忙しく大変だと思うけれど、すべてのタスクは必ず自分に返ってくるはず。この夏またきっとすばらしいプログラムを共に作っていけると信じています。

e-dream-s 東京会員のみなさんにエールを！

(大阪) 飯田佐恵

’ECAP2007’開催を担当する東京会員のみなさん、それぞれの分担で着々と準備を進められていることでしょう。’ECAP2007’は長い歴史のある ACROSS や e-dream-s の行事で初めて東京で開かれる大イベントですから頭や胸の中は不安や心配でいっぱいでしょう。とてもしんどい思いをされていることとお察しします。

でも、しんどいことほど終わった後の喜びは大きいし、準備をしていくうちに楽しさが増えてきて開催当日が待ち遠しくなってきます。

そこで私がみなさんの立場だったらどのように楽しみを見つけるかなと考えました。

参加される韓国の先生の中にはみなさんとの再会をどれほど楽しみにしておられることでしょうか。また、日本の首都、東京へ行くことの楽しみは大きいにちがいありません。そんな韓国の先生の期待にどのように応えようかと考えると楽しくなってきます。

何と言っても’ECAP2007’は「韓国人の先生、日本人の先生、Native English Speaker の3人で日本の生徒相手に授業をする」という世界初とも言える試みですからワクワクします。自分の受け持つ生徒をその授業に参加させたいです。その授業での生徒の様子を見るのが楽しみになります。

そして前もって生徒に次のような質問をして、かれらの反応を集めておくことも自分自身の’ECAP2007’に参加への気持ちを高めてくれます。

「韓国の先生が日本の中学生を相手に授業をしたいと言ってますが・・・」と切り出して、

1. 「韓国の先生の授業を受けてみたいですか」「何故」
2. 「どんなことを教えてほしいですか」「何故」
3. 「何語で授業をされると思いますか」「何故」
4. 「あなたの家族や親戚、友人に韓流ファンがいますか」

など。

自分の期待通りに生徒は参加してくれないかもしれませんが、グループで授業計画を話し合うときや、Fun Time の内容を考えるときの資料として役立つでしょう。

東京会員のみなさん、確かに行事開催の担当は責任の重いことですが、楽しみながら準備を進めていきましょう。私もみなさんといっしょに「’ECAP2007’の成功」を担っていきたいと思っています。

「力いっぱい、楽しく！」と大声でエールを送ります。

編集後記

「第 25 回理事会報告&ECAP2007 準備・大特集号」は、いかがだったでしょうか。2007 年度の e-dream-s の事業内容や ECAP2007 の準備状況などについて、詳しく知ることができました。それぞれの事業で、会員みなさんに意見・情報提供など協力が求められています。自分にできることを実行していきましょう。最後の飯田先生からのエールに、温かな力強さを感じました。(道面和枝)